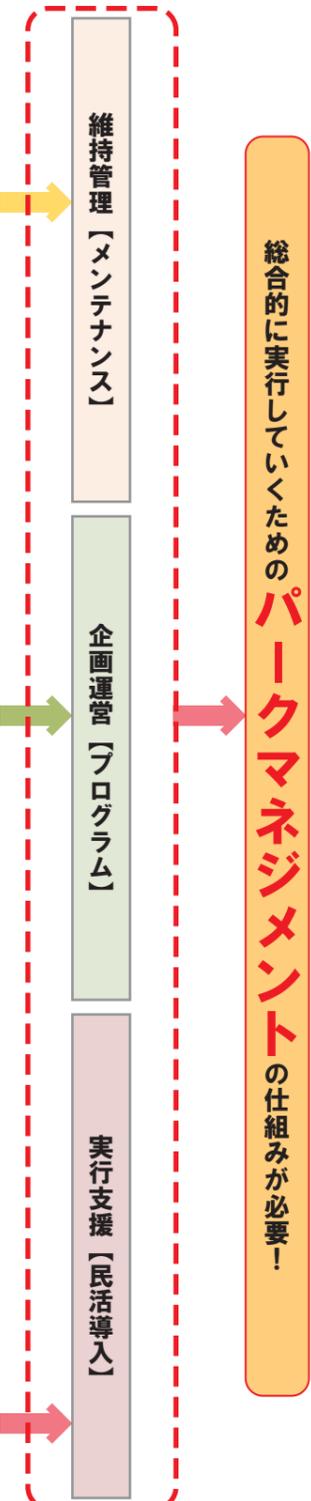


実現に向けた体系化

市民が求める野鳥公園のあるべき姿を実現していくために、以下の5つのグループで体系化し、実施時期を示した。

なお、管理運営の視点からみた場合、メンテナンスやプログラム、実行支援などを総合的に実行していくための仕組みとして、近年においては、パークマネジメントという形で管理運営機能を高める試みが実施されている。

対応する活動	実施時期		
	短期 (H25~H34)	中期 (H35~H44)	長期 (H45以降)
公園づくり	オープニングに向けたどんぐりの植樹 (小学生対象)		
	誕生記念樹		
	維持管理マニュアルの充実		
	市民参加の公園づくり		
	対話 (ダイアログ)		
	意見を語り合うラウンジカフェ		
	市民による公園づくりプログラム		
	野鳥が食する植物を庭に植える		
	野鳥の休憩場としての石組み		
	野鳥の砂遊び		
観察学習	エコキャンプでの野鳥観察会		
	自然観察のクラブ活動		
	地域の「塩づくり」や「ノリづくり」学習		
	夏の磯遊び、秋の木の実拾い		
	エコプロジェクトへの参加 (クリーンアップ活動等)		
	飛来する野鳥観察とその記録		
	野鳥に関する講演会への参加		
	エコクラブとの連携		
	部活のフィールドとしての活用		
	野鳥に関する研究や論文製作		
地域交流	自然モニタリング活動		
	エコガイドの育成		
	インターンシップの受入		
	干潟と淡水湿地での遊び (潮干狩り、カニなどの生きもの)		
	干潟の生きもの観察や体験学習		
	携帯ゲームを使用した環境参加型プログラム		
	ガイダンスセンターや観察小屋で野鳥観察		
	野鳥に関する絵本を読む		
	ガイドボランティア養成講座		
	海を見ながらくつろげるピクニック		
国際交流	野鳥公園を拠点とした活動 (ラウンジカフェの継続)		
	自然観察のための市民交流の拠点		
	世代間交流の推進		
	野鳥カフェテラス (ソーシャルビジネス)		
	パークマネジメントへの参画		
	鳥のさえずりを聞きながら家族で散歩 (木道を寄付)		
	周辺の小学校による遠足		
	土産品の開発		
	アイランドシティへの定住		
	野鳥を通じた国際交流イベント		
企業連携	野鳥に関する学会の開催		
	海外の愛鳥家を訪ねる旅の実施		
	観光客増加の取り組みと対応		
	ラムサール条約登録を目指す活動		
	エコプロジェクトへの企業協力		
	企業によるCSR活動、研修、企業PRの場		
	セグウェイ・レンタサイクルなどでアイランドシティを散策		
	結婚記念品の購入 (寄付)		
	野鳥公園ファン		



パークマネジメントとは

公園を管理運営する仕組みのこと。市民が中心となって公園の活用プログラムを作り出して、多様な主体と連携しながら、利用増進を図るとともに、持続的に楽しめるコミュニティを創出する。



行事の共催 (地域連携)



自然観察会 (NPO 連携)



維持管理作業 (ボランティア連携)

福岡市 野鳥公園基本計画

(基本コンセプト、活動プラン)

概要版

計画対象地の敷地条件等

野鳥公園建設予定地は、550ha にも及び自然環境を擁するエコパークゾーンの中央部に位置し、福岡都心部からも近いアイランドシティ北側護岸沿いに位置する約12ha の場所である。

予定地の前面には、国指定和白干潟・多々良川河口鳥獣保護区に指定されている和白干潟 (254ha) が広がり、周辺には、国営海の中道海浜公園や玄海国定公園があるなど、自然に恵まれた場所となっている。



図：エコパークゾーンの概要と野鳥公園計画予定地の位置

計画対象地内は、調査時 (平成25年5月) において、載荷盛土が残っている状況で、盛土の法面には、野鳥によって運ばれた種子から自生したと思われるアキグミやヌルデ、ネムノキなどによる樹林地や、管理用道路の境界部には塩生植物のハマボウなどがみられた。



写真：計画対象地内の状況

野鳥公園整備に至る検討の経緯

平成元年7月 港湾計画改定

- 博多湾東部の海や海岸、和白干潟などの自然環境を保全するため、陸続き方式から島方式への変更



平成5年4月 アイランドシティ整備事業 環境影響評価書

- 湿地、磯浜、池、海浜植物等を備えた「野鳥公園 (仮称)」として整備する

平成18年5月 野鳥公園基本構想

- 「エコパークゾーンとの一体的な整備」が不可欠
- 初期段階では基本的な整備のみを行い、その結果を見ながら必要な整備を追加していく (順応的管理手法) など柔軟な対応が必要
- 「環境共生」、「健康」、「みんなで関わる」を具現化できる空間

平成21年12月 アイランドシティ事業計画

- アイランドシティの魅力向上

平成22年3月 エコパークゾーン環境保全創造計画

- 多様な主体と連携・共働しながら、ソフト面での施策の充実を図る

平成23年12月 アイランドシティ・未来フォーラム

- 自然を再生し、人々に親しまれる野鳥公園の早期着手

平成24年5月 生物多様性ふくおか戦略

- 生物多様性に関する教育・学習の推進
- 自然環境の再生・回復の推進

平成24年8月 博多港長期構想

- 国内外に発信できるような新しい環境モデルの構築

平成24年11月~平成25年12月 野鳥公園ラウンジカフェ

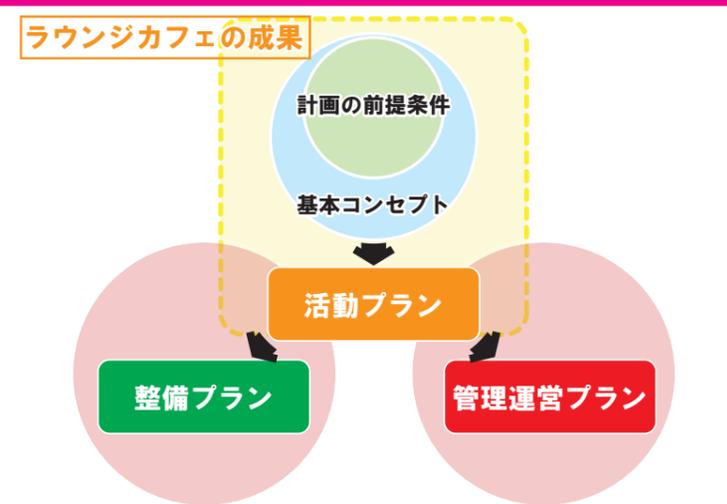
野鳥公園 ラウンジカフェ

野鳥公園ラウンジカフェは、多様な主体が自由に意見交換を行いながら、野鳥公園の整備や活用、運営に向けて語り合う場であり、平成 24 年 11 月から全 8 回開催し、延べ 321 人が参加した。

- 平成 24 年 11 月 第 1 回 野鳥の観察会で野鳥のことをちょっと知り、「野鳥公園とは？」を全員で話し合いました。
- 平成 25 年 1 月 第 2 回 市民・地域住民・野鳥・子ども・専門家の立場になりきり、野鳥公園でできることを探し、32 のコンセプトを見出しました。
- 3 月 「野鳥に会いに行くバスツアー」
- 3 月 第 3 回 32 のコンセプトの中から、特に大事なものを選び、野鳥公園の使い方や活動を話し合いました。
- 5 月 第 4 回 野鳥公園の計画予定地を全員で視察し、たたき台としての大図面に具体的な意見を出しました。
- 6 月 第 5 回 ブロックを用いて、理想的な野鳥公園を表現し、自分が野鳥公園に貢献できることを考えました。
- 9 月 第 6 回 コンセプト案として「成長する野鳥公園」を提示し、野鳥公園で繰り広げられる様々な場面（シーン）を考えました。
- 11 月 第 7 回 オープンセッションに向け、市民のみなさんに伝えたい、理想の野鳥公園像をストーリーボードにまとめました。
- 12 月 オープンセッション
- 12 月 第 8 回 オープンセッションを受けて多くの市民意見が反映された、野鳥公園の将来像をまとめ上げました。



基本計画の体系



本計画においては、過去から検討してきた内容を計画の前提条件として整理し、ラウンジカフェでの市民意見を踏まえて、基本コンセプト及び活動プランの策定を行った。活動プランに基づき、整備プラン、管理運営プランへと展開していく。



基本コンセプト

野鳥公園は**成長**します。それは野鳥公園に限られた立場や世代のための空間ではなく、皆さんの成長にあわせた多様性が生まれる場所だからです。野鳥公園は人によって育てられ、そして野鳥公園が人を育てていきます。

野鳥公園は**新たなコミュニティ**を育みます。それは皆さんと公園との新しい関わりとなり、共働によるパークマネジメント（公園運営）を介して、人と人とのつながりを育てていきます。

野鳥公園は**魅力あるまちづくり**へ展開します。それはアイランドシティというまちの成長とともに生きものの命を育み、そして持続可能なまちとして子どもや孫たちの世代へと繋げていきます。

concept

成長する野鳥公園

～人と自然が共に成長し続けるために～

将来展開イメージ



人が野鳥公園の整備や運営に関わることで成長するとともに、まちや自然も成長する。

活動プラン

基本コンセプト、基本方針をイメージしやすくするために、市民が野鳥公園に求めるあるべき姿、人の成長段階に応じたストーリーとしてまとめた。

誕生

野鳥公園のオープンまであと3年。オープンまでの期間も、一緒に野鳥公園をつくっていくという意識で、今年以降に生まれた赤ちゃんは特別に、誕生記念贈り物をもらえる。「これから公園と共に成長していく」という意味が込められているそう。今年の春に生まれ立派な鳥になって、鳥類は記念品に出かけた。

母木のチームプレートには親の名前と生年月日、そして季節が入っている。鳥類は毎年この木と樹木で成長するから。そして成長する野鳥公園のバックに、家族写真を添えることになったみたい。入口でもあったこのフレットには、オープン後の色々な風景が描かれている。芝生広場や橋のいい眺め、森や水辺などを自由に楽しむ場所は、オープンまで一部開封される予定の芝生広場に、今年おいらんおばあちゃんも連れてピクニックに来ようとしている。

アクティビティのキーワード

- 海を見ながらくつろげるピクニック
- 誕生記念贈り物
- オープニングに向けたどんぐりの贈り物（小学生対象）

新しく家族になったきみと、新しくオープンした野鳥公園で野鳥とともに成長する家族のストーリーが始まった

子ども時代（幼児）

アクティビティのキーワード

- 海を見ながらくつろげるピクニック
- 誕生記念贈り物
- オープニングに向けたどんぐりの贈り物（小学生対象）

子ども時代（小学生）

新しく家族になったきみと、新しくオープンした野鳥公園で野鳥とともに成長する家族のストーリーが始まった

子ども時代（中学生）

今日は1日目のボランティアプロジェクトの日。プロジェクトリーダーの呼びかけで、近くの中学校生は、地域のいろいろな人たちが参加して取り組んでいる。

野鳥公園の鳥たちの見守り、ボランティア活動と、自分の一歩。ボランティア活動の意義を伝えて、公園にたくさんのお花が咲き始めるようにしたい。それがこのプロジェクトの目標。プロジェクトではボランティア活動を行うクリーンアップ活動もあれば、公園の鳥のエサや住みかとなる植物を植えることもある。

今日は、プロジェクトリーダーに専門的アドバイスをもらいながら半年前から進めてきた、千葉に生息する定着させるプロジェクトの第一歩。親、企業の人に提供してもらった資材を仕入れたので、その経過報告に来たところ。経路は好評！アツアツのこころもあつあつ。

僕たちは快活な公園でも、生きものたちにとってはまだまだ環境を良くしていく必要がありそう。

アクティビティのキーワード

- 野鳥公園主催のエコプロジェクトに参加（クリーンアップ活動等）
- エコプロジェクトへの企業協力
- 千葉や淡水湿地の野鳥観察会

初恋の君が参加するからと 思い切って参加したエコプロジェクト 新しい世界に触れて 僕は野鳥に恋をした

高校時代

野鳥の視点②

学生時代

社会人

野鳥の視点①

結婚

壮年期

熟年期

海と大地の視点

老年期

「ありがとう」って言うのは照れくさいけど 僕と一緒に育ったこの野鳥公園に恩返しをしたいんだ